大阪府保育士会だより

ほほえみ

平成15年4月1日
第63号
大阪府社会福祉協議会
保育部会・保育士会
大阪市中央区中寺1-1-54
TEL 06-6762-9001

倫理綱領の策定

大阪府保育士会長　武内茂子

賑やかな子ども達の声に追いたてられそうな新年度を迎えました。

保育士にとって積年の想いが実る日もやってくる年となりますが、多くの課題を抱え、期待と熱い視線をうれしく受けとめ、より一層、社会的使命を果たせる努力が必要だと強く感じなくてはなりません。

保育士国家資格を受け、専門職としての責務を認識し、より一層の研鑽を積み、子ども達の育ちを守り、保護者の子育ての支援、子どもの育ちにやさしい社会づくりをめざす「倫理綱領の策定」に至りました。

専門職としてのあるべき姿を示す綱領をもつようになったことを誇りに思うと共に、今年度から新たな気持ちで研修会の計画実行をしていけるよう、会員皆々様の理解と意識が大切だと思っています。

今の世の中の常と同じく福祉にも大きなうねりが押し寄せています。専門性ある学びから保育の自信、自覚につながる活動を展開し世の中にアピールしたいものです。

全国保育士会倫理綱領

保育士資格の法定化をうけて

すべての子どもは、豊かな愛情のなかで心身ともに健やかに育てられ、自ら伸びていく無限の可能性を持っています。

私たちは、子どもが現在（いま）を幸せに生活し、未来（あす）を生きる力を育てる保育の仕事に誇りと責任をもって、自らの人間性と専門性の向上に努め、一人ひとりの子どもを心から尊重し、次のことを行います。

私たちは、子どもの育ちを支えます。
私たちは、保護者の子育てを支えます。
私たちは、子どもと子育てにやさしい社会をつくります。

（子どもの最善の利益の尊重）
1．私たちは、一人ひとりの子どもの最善の利益を第一に考え、保育を通してその福祉を積極的に増進するよう努めます。

（子どもの発達保障）
2．私たちは、養護と教育が一体となった保育を通して、一人ひとりの子どもが心身ともに健康、安全で情緒の安定した生活ができる環境を用意し、生きる喜びと力を育むことを基本として、その健やかな育ちを支えます。

（保護者との協力）
3．私たちは、子どもと保護者のおかれた状況や意向を受けとめ、保護者とより良い協力関係を築きながら、子どもの育ちを支えます。

（プライバシーの保護）
4．私たちは、一人ひとりのプライバシーを保護するため、保育を通して知り得た個人の情報や秘密を守ります。

（チームワークと自己評価）
5．私たちは、職場におけるチームワークや、関係する他の専門機関との連携を大切にします。
　また、自らの行う保育について、常に子どもの視点に立って自己評価を行い、保育の質の向上を図ります。

（利用者の代弁）
6．私たちは、日々の保育や子育て支援の活動を通して子どものニーズを受けとめ、子どもの立場に立ってそれを代弁します。
　また、子育てをしているすべての保護者のニーズを受けとめ、それを代弁していくことも重要な役割と考え、行動します。

（地域の子育て支援）
7．私たちは、地域の人々や関係機関とともに子育てを支援し、そのネットワークにより、地域で子どもを育てる環境づくりに努めます。

（専門職としての責務）
8．私たちは、研修や自己研鑽を通して、常に自らの人間性と専門性の向上に努め、専門職としての責務を果たします。

地域とともにふれあい大切に

地域の子ども達とお年寄りを招いて、お花見や運動会、お餅つき、お正月遊びを開催しています。昨年9月には、介護老人福祉施設からお年寄りが運動会に参加してくださり、園児と玉入れをして大喜びされました。また2月には、5歳児がその施設を訪問して和太鼓、お遊戯を披露し、ふれ合い遊びでは小さな手を握る可愛さに涙されていました。

今後も、積極的な関わりをもって、子ども達にやさしいいたわりの心を育てていきたいと思います。

河内長野市　ちづる保育園

手と手を合わせてニッコリ

これからの保育を学ぶ

千葉で全国保育士研修会

1月29日～31日に千葉県浦安市のホテルで第29回全国保育士研修会が開催されました。

行政説明では少子化・保育士登録などの児童福祉法一部改正の話がありました。武内全国保育士会会長からの基調報告では、第三者評価や専門職の責務など、これからの保育園に求められるものを改めて知ることができました。記念講演は、石井哲夫白梅学園短期大学学長から「保育士の社会的位置づけの変化、子育て支援や育児相談、専門職である保育士の役割」などのテーマで聞かせていただきました。

◆Aコース
「主任保育士の力量を高める」
～保育の自己評価と点検を考える～
川原佐公講師

「楽しくなければ保育でない」と最初に手あそびが行われ、なごやかな雰囲気の中で研修が始まりました。

第三者評価・自己点検・自己評価…と保育の質の向上を目的としての取り組みが必要となり、主任保育士としての役割もますます責任重大と痛感しました。

グループ討議では、保育計画について話し合い、他府県の先生方と意見交換を行いました。

最後に「〝良いもの〟を見て感性を磨きましょう。素晴らしい人間性の持ち主となれるように」とのこと、心に響く研修でした。

◆Bコース
「気になる子、気になる親へのアプローチ」
～家族援助の立場から～
湯澤直美講師

家族のイメージ・母性・暴力・こども虐待・ジェンダー・家族問題など、ビデオや絵本を通して学びました。特にジェンダーについては興味深く聞くことができました。

事例検討では、ファミリーサポートを保育園から発信していく時代なので、援助者としての技術だけでなく、心の叫びを受けとめることができるよう、多様化する現代の家族と接していく上で、日々研さんしていかなければと実感しました。

◆Cコース
「保育所保育における援助の視点技法を学ぶ」
～社会福祉援助技術基礎講座～
村井美紀・山本博之・尾崎眞三講師

指導とは、親への援助であり、親が親として成長・自立していく支援を行うものであると語られた。

支援する方法として

①指導（指導してはいけないという考え方もあるが、それは〝指導だけ〟ではダメでお世話をしていく必要がある）

②お世話（相手の役割をかわってあげることで負担を少なくする）

③主体性の保育（相手が自分で取り組むことを見守る）

見守るとは、相手の話を聞き理解する・そのままの相手を認める・失敗する権利がある、の3点をあげられた。

山本・尾崎両講師にはロールプレイの実践を学び、「人にはいろいろな考え方物の見方があること、言葉ではうまく伝わらず、また伝えられないもどかしさや不安感（保護者の気持）、アピール方法などがあるのだと知りました。

◆Dコース
「保育所保育指針の理解を深める」
～保育計画・指導計画の検証と実践への展開～
山下素子講師

保育計画は保育全体が見えてくるものであり仮説的なものなので、その時々の子どもの発達に臨機応変に対応していくことが大切である。指導計画は保育計画を具体的にしたものである。環境構成に人的環境・時間・空間・雰囲気が書かれているものが少なく、援助と間違って書かれていることもある。環境構成は活動前の保育者の配慮、援助は活動中または活動後の配慮である。第三者評価は公表することにより利用者が目安にでき、園としても問題を改善する糸口となる。

◆Eコース
「子どもの発達をめぐる課題を考える」
～小児保健コース～
巷野悟郎（こうのごろう）講師

★子どもの生活リズムを理解しよう。

生活リズムは、自律神経（交感神経と副交感神経）と密接に関係しており、体の内部で調整が行われ、よい状態になろうとする。

動物は、昼間に行動するのが当然で、朝早く起きて朝日を浴びることできちんとしたリズムになっていく。

★食と発達

〝食〟によって一日が始まり、行動の源となる。

母乳は、母親のタンパク質を含み、無駄がなく、脳の発達に必要な乳糖も含んでいる。

偏食なども、無理にやめさせるのではなく、その子に応じた対応をとるべき。

★早期教育

子どもは、子どもらしく遊ぶことが第一であり、無駄なことは何か、考えられることが大切。企業の宣伝などに迷わされ、自分の都合のいいようにならないようにしたい。

その他、普段の保育からの疑問に、医学的な立場でアドバイスをくださった。

◆Fコース
「あそびを豊かにする実技」
～あそびのテーマパーク～
繁下和雄
黒須和清
成田和夫
谷口國博
増田裕子
平田明子
各講師

楽しい手遊び、親子や保育士と子どもとでするスキンシップ遊び、ちょっとした工夫でできるおもしろおもちゃ作りなどとても楽しめた研修でした。

歌、手遊び、おもちゃ作りなど、子どもが興味を引くようなレパートリーを多く持つことが、保育士としての自信とゆとりにつながるのだと思いました。

紙皿と割りピンだけで小さなお話ができます

全国研究大会の報告を聞く

主任保育士研修会は、11月28日、大阪社会福祉指導センターでされ、10月に開かれた全国保育士研究大会の、４つの分科会について報告いただいた。

主任保育士研修会

〔第２分科会〕
遊びを通して
総合的に行う保育

▽発表１　食事中落ちつきがない。遊びに集中できず、友だちとの関わりが思うようにできない子どもの姿をきっかけに、保護者にアンケート調査を行った。

年間計画に散策を取り入れることで、食欲が増し、落ちついて食事ができるようになった。また、子ども同士の関係が良くなり、遊びの持続や、家族での変化がみられるようになった。

▽発表２　自分を守る体力と知恵を備え、意欲を持って自主的に活動することを目指し、山登りに取り組むことで、子どもたちが自然への興味や関心を深め、満足感や達成感を得られるようになってきた。今後は指示を待つだけではなく、次の展開を予想し、考えて行動する力を養う活動や、関わり方を工夫したいとのことでした。

助言者からは、遊びを通して観察することが理解を深め、援助方法も見え、親との連携が信頼関係を築く。そして親子がともに育ち合う環境が大切、と締めくくられた。

〔第５分科会〕
健康・安全に関する内容

▽発表１　「ミルクを飲ませにくい」「吐きやすい」「哺乳量が増えにくい」という３つの事例について、埼玉県内の乳児保育園でとられたアンケートの結果報告がありました。集団保育をしている保育園では時間制授乳が多いということでした。乳児期保育は、ふれ合いを重視した自律授乳が重要であり、乳児の生理的な空腹にどう関わっていくか考えていかなければならないとまとめられました。

▽発表２　日々の子ども達の生活リズムの乱れが加速していることから「感性と生活習慣に関する研究会」を発足。睡眠時間と排せつについてアンケート調査を行いました。その結果、親の生活習慣が子ども生活へ影響を及ぼしていることがわかりました。乳幼児期に生活習慣を確立することの大切さ、を保護者に自然に伝えられるよう信頼関係を築いていくことが大切だということでした。

〔第４分科会〕
集団を効果的に
活用する保育

▽発表１　一人ひとりの感性の社会化を促す保育の創造「集団の中で個を育てる保育士の働きかけを考える」では、子どもの個性を尊重し、感動や思いやりを持つ体験をクラス全体へ働きかけ、社会的なつながりを広げていくことを通して、感性の社会化をはかっていくことが大切であると発表がありました。子どもと保育士の感性の共有、保育士の心からの共感の大切さについても考えさせられました。

▽発表２　人間関係のプロローグ「集団が楽しいと思える子に育てるための効果的な援助の仕方を考える」では、地域の実態をふまえ「受容、認める、集団思考問題決」をキーワードにされた保育実践が発表されました。個人の尊重と個性の開花のためには、個人だけでなく集団にも向き合うこと、一人ひとりの発達につながる集団のあり方を深めることの重要性が強調されました。グループ討議の中でも、それぞれの思いを出し合いました。

〔第８分科会〕
保育士の専門性

▽１～２歳児のかみつきの実態と考察

「かみつき」は、１～２歳児の発達段階上の一現象であり、その対応に保育士は苦慮するという。自我のめばえの姿であり、意志が伝えられなくて、衝動的にかみついてしまう。おもちゃの取り合いが、一番多くみられる原因である。保育士はこのことから、子どもの思いを理解し関わること。一人ひとりの興味、関心が満足でき、安心して遊べる環境を考えること。子どもたちと向かい合いながら、落ちついた雰囲気の中で、遊びの楽しさを知らせていくことが大切。

子どもたちは、保育士の一挙一動を敏感に感じます。保護者に伝え、話し合うことも必要ですが、何ができるのかを考えなくてはならない。「かみつき」の行動の裏側にある、子どものいろいろな思いに応えていくことが大切であるということでした。

平成15年度　大阪府保育士会事業計画（案）

4月25日
平成15年度総会
「保育と保健」
講師：北畑英樹氏

6月17日
保育士研修会
「保育士の責務と倫理」
～全国保育士の倫理綱領策定をうけて～
講師：柏女霊峰氏

9月3日
保育士研修会
保育士による発表
「行事を楽しむ」（仮題）

10月22日
保育士研修会
平成16年度全国保育士会研究大会
発表担当テーマ発表
「遊びを通して総合的に行う保育」～3歳未満児

12月5日
保育士研修会
平成15年度全国保育士会研究大会
各分科会の伝達の研修

15年度事業計画（案）は4月の総会において決定いたします。

たのしい保育活動

―雪ってよく滑るね 今年も金剛山へハイキング―

子ども達に雪を見せてあげたい!!という園長の思いもあって、今年も1月の終わりに金剛山へ雪山ハイキングに行きました。

観光バスにゆられて3・4・5歳児の子ども達が、着慣れないスキーウェアに身を包んで嬉しそうに出かけました。今年は雪の少ない大阪でも雪が降った日もあり、当日は良いお天気に恵まれたものの、大変な積雪が残っていて嬉しい悲鳴をあげたのは、子ども達ばかりではなく保育士も大喜びでした。ソリ滑りをしたり、雪合戦をしたり、雪ダルマを作ったりと、日頃の園生活では、味わえない遊びにどの子も満足の笑顔でいっぱいでした。山頂の香楠荘の大広間をお借りして、お母さんの手作りのおいしいお弁当を食べました。

2週間後に、生活発表会を控えていましたので、練習の合い間のほんのひと時でしたが、素敵な体験ができたことは、きっと子ども達の楽しい思い出のアルバムとなることでしょう。

帰りには、ゴミ袋いっぱいの雪を園でお留守番をしていてくれていた0・1・2歳児のために持って帰りました。

この花保育園
浜田　典子

ソリ遊びでワイワイ、キャーキャー

保育あんな工夫 こんな工夫

異年齢児 みんな一緒に 汽車ポッポランチ〝発車〟

朝から子どもたちのうれしそうな声。そうです。今日は、2歳児から5歳児までホールで会食をする『汽車ポッポランチ』の日なのです。汽車ポッポという名前は、異年齢の子どもたちが一つになってつながっている様子をイメージしたものです。

食事の時間になると4・5歳児が、ホールにテーブルと椅子の用意をし、2・3歳児を迎えに行きます。そして、盛り付けられた給食をトレーにのせて配膳します。テーブルに届いた給食を見て、2・3歳児は、うれしそう。4・5歳児もニッコリ!みんなで楽しい汽車ポッポランチの始まりです。異年齢の子どもたちが集まったテーブルはとても賑やかで楽しそうです。食事中の世話も大きい子どもたちの役目です。そして、食後の片付け、午睡の準備までを一緒に過ごします。

始めの頃は、配膳中に「おっとっと」という場面もありましたが、回を重ねるごとに上手くなり、今では後ろ姿もりりしく見えるようになりました。思いやりを持って、心一つに進む汽車ポッポ第二末広号は、なかよく走ります。

第二末広保育園
仲　真由美

よみがえった昔の知恵 歩行器代わりに 木守り活躍

保育園から歩行器が、姿を消して20年近くなるでしょうか。当時、保育室をスーイスイ、わがもの顔で、歩行器をころがしていた子ども達も、ちょっぴり寂しそうにしていたものです。

そこで昭和62年、木守りが登場しました。昔は、首のすわった赤ちゃんを、おくるみでくるみ、足の部分は安定のいいように座布団などを入れ込み、立てて畑仕事などに精を出していたとか聞きます。

昔の人の知恵を再び。50年以上も前に使用していたものが、伝え伝えられて、我が園に届き、大工さんによって復活となりました。

つかまり立ち、つたい歩きを初めた子ども達。木守りの中で足をふんばり歌をうたったり、食事をしたり、疲れたら〝こそっ〟と中に入ってしゃがみ込んでひと休み、それがまた、かわいらしいのです。

大きくなったら、はい出てきますので使用不可。みきわめが大事です。

子ども達の発達段階に合せた道具〝木守り〟。重宝しております。

竹城台東保育園
谷口　明子

編集後記

新年度を迎え慌ただしい日々を過されておられることでしょう。保育所に対する期待も増加傾向にあります。私たちが心を込めて毎日の保育に携わってきたことが、今につながっているものと、嬉しく思っています。

何はともあれ、私たちは子どもの最善の利益尊重のため、責任のもてる日々を過ごさなければなりません。